

令和7年6月定例会 一般質問

令和7年6月10日 1番

河崎 大樹 議員



大阪維新の会の河崎大樹です。通告に従い順次質問します。

1 - (1) 西ゲートの利用促進、午後からの来場促進

万博が開幕してから約2か月が経ち、この間、来場者数も日に日に増加してきております。会場に行くと、たくさんの国内外の方々が賑わっていて本当に嬉しい限りです。博覧会協会による来場者向けのアンケート調査でも、約8割の方が「万博に満足した」「また来場したい」と回答したとの結果も出ている一方で、運営面でみえてくる様々な課題には、協会においても、対応できるものから一つ一つ改善に取り組んでいただいていることと承知しております。

東ゲートでは特に朝の時間帯に待機の列が発生し、西ゲートに比べ、入場までかなりの時間を要している状況にありますが、来場者が増加傾向の中で、今後、より多くの来場者を受け入れていくには、西ゲートの利用促進や、午後からの来場促進を図ることが重要と考えます。まず、これらの取組状況について万博推進局長に伺います。

(答弁)

まず、西ゲートの利用促進に向けて、博覧会協会では、パーク＆ライド駐車場において、

- ・当日予約枠の開設や、
- ・15時以降に半額割引料金を導入することにあわせ、
- ・西ゲートに同駐車場優先入場レーンを設定する

などの取組みを先月24日から実施するとともに、シャトルバスの路線追加などの検討がなされている。

また、午後の来場促進に向け、各パビリオンに当日予約枠を午後から複数回開放するよう働きかけることに加え、飲食店等での夕方以降の割引サービスの提供や、物販での営業時間の延長に向けた調整が進められている。

さらに、大阪メトロでは、来場者が集中する昼間の時間帯における中央線の更なる増便の準備が行われる等、引き続き、関係者一丸となって、より多くの方々にお越しいた

だけよう、しっかり取り組んでまいる。

【要望】

先日、平日の午後から堺のパークアンドライドを利用しました。当日予約で半額の 3,000 円になるのは大きいと思いましたが、駐車場はガラガラで、会場までの大型バスに乗った人は私を入れて 4 人だけでした。

また、西ゲート前についたとき、バスは会場入り口を通り過ぎ、かなり遠くで停車します。バスの乗る場所をそれぞれ別に固定するのはわかりますが、降りる場所は入り口近くに共通の場所を設置できないかと考えました。

地下鉄経由の東デートより西ゲートの方が、会場の入り口近くでバスから降車できるとなれば、更なる利用促進につながると思うので、こちらもぜひ検討していただければと思います。

1 - (2) 大阪ヘルスケアパビリオンにおける新たな体験方法の検討

次に、大阪ヘルスケアパビリオンについて伺います。先月 28 日に、来館者数が 100 万人を突破したとのことですが、パビリオン出展基本計画では、想定来館者数が 280 万人とされておりまして、開幕から 1 ヶ月半ほどでの 100 万人達成は想定を上回るペースであり、順調な滑り出しと言えると思います。

人気のメイン展示である「リボーン体験ルート」では、「カラダ測定ポッド」で健康データを測定し、25 年後のアバターとともに、展示ゾーン「ミライのヘルスケア」や「ミライの都市」をめぐる体験ができますが、例えば、この「リボーン体験ルート」を全部回るのはではなく、その一部だけでも体験できるようにすることはできないでしょうか。

より多くの方にパビリオンでの体験を楽しんでもらうために、柔軟な対応

も必要と考えますが、万博推進局長の所見を伺います。

(答弁)

大阪ヘルスケアパビリオンでは、博覧会協会との連携のもと、午後からの来場者や夜間券利用者にも当日予約ができる機会を提供するため、一日に３回、具体的には９時・１２時半・１６時半の３回に分けて枠を開放することを、WEB サイトや SNS でご案内しているところ。

また、アーリーゲートオープンの実施を踏まえ、朝の最も早い時間帯、具体的には９時台の枠を予約した方に対し、予約時間より１５分早く入館いただける仕組みを設けることで、その時間帯の予約枠を増やすなど、来館促進に取り組んでいる。

さらに、「リボーン体験ルート」のうち、「ミライのヘルスケア」や「ミライの都市」ゾーンだけでも体験いただける新たなルートを検討しており、現在、早期の導入に向け、来館者の受付方法や円滑な動線設定などの精査を行っているところ。

引き続き、一人でも多くの来場者にパビリオンでの体験を楽しんでもらえるよう、関係者の協力のもと、日々工夫しながら取り組んでいく。

Ⅰ－（３） リボーンチャレンジ展示のPR

よろしくおねがいします。

あと、大阪ヘルスケアパビリオンのⅠ階においては、リボーンチャレンジとして、４００を超える府内の中小企業やスタートアップの展示がされておりますが、この取組みを展示企業の新たなビジネスにしっかりとつなげるためにも、一般来場者だけでなく、企業関係者にも広く紹介していくべきと思いますが、商工労働部長の所見を伺います。

(答弁)

大阪ヘルスケアパビリオンには国内外の政府機関・経済団体、ミッション団等が多数視察されているが、パビリオン運営法人の協力も得て、さらに多くの企業団に訪れていただくよう努めるとともに、府内の中小企業やスタートアップの優れた技術・製品を積

極的に紹介するため、職員が日英二か国語の資料により説明するなど、企業とのビジネス交流につながるよう取り組んでいるところ。

また、会場内の出展が短期間であることから、出展企業には、中之島クロスや ATC など会場外での展示機会も提供するなど、会期中のビジネスチャンスの拡大に努めている。

Ⅰ－（４） 海外とのビジネス交流

続いて、万博開催の機会を活かした海外とのビジネス交流について伺います。

世界各国の企業関係者が多く集まる万博は、ビジネスの場としても期待されており、各国は自国パビリオンで実施するビジネスイベントのほか、会場外でも展示商談会や投資セミナーを開催するなど、積極的に日本の企業と接点を持とうとされています。これは、地元の府内企業にとっても、販路の開拓や供給網の構築など成長のきっかけを掴む、またと無い好機であります。

府は、これら海外から訪れるビジネス関係者に対して、府内企業が持つ製品や技術を広く PR するほか、大阪産業の魅力を積極的に売り込み、万博のレガシーにしていくことが重要と考えますが、どのような活動を行っているのか。商工労働部長に伺います。

（答弁）

府では、万博でのビジネス交流に向けて、優れた技術を有し、視察可能な府内企業や会期中の展示商談会などを紹介する冊子を作成し、売り込みツールとしての「もずやんモール」とともに各国総領事館等を訪問して案内するなどの準備を進めてきた。

開幕後は、各国の政府機関・経済団体等が開催するビジネスイベントに加え、ビジネスミッション団の来訪、経済交流を希望する賓客・要人などの情報を積極的に収集し、こちらから出向き、府内企業の製品・サービスとともに、ライフサイエンス等成長分野やスタートアップなど大阪のポテンシャルの PR も行っている。

これらで得た海外企業などとの縁を、企業活動のみならず、万博後の再度のビジネスでの来阪につなげられるよう、名刺やニーズ等の情報はデータベース化し、会期後のフォローアップも行っていく予定。

また、府内企業が参加可能なビジネスイベントは、大阪産業局とともにホームページやメルマガ等で発信し、海外企業との交流に活かしていただけるように努めており、一社でも多くの府内企業が海外とのビジネスチャンスを獲得できるよう、引き続き関係機関とも連携し、全力で取り組んでいく。

【要望】

大阪を世界に売り込む絶好の機会であります。様々な手法で府内企業の売り込みに取り組んでいることは理解したが、商工労働部はいわば大阪産業の営業マンであり、さらに知恵を絞ってビジネス交流の拡大に取り組み、大阪経済の成長・発展につなげてほしいと思います。

Ⅰ－（５） 児童・生徒招待事業の教育的意義

次に、2025 年日本国際博覧会 児童・生徒招待事業について伺います。

子どもたちが仲間とともに万博会場に足を運ぶことで、最先端の技術や様々な国の文化を体験し、これからの社会について考えを深める契機にもなる、この児童生徒招待事業は、教育的意義がとても大きいと思います。

ただ、事業の開始から2か月近くが経ちますが、十分な体験ができた学校とそうでない学校で大きくバラツキがあるように感じております。

これまで府教育庁では、博覧会協会等と連携し、各学校の来場環境の整備に努めてきたとのことですが、まだ不十分なところもあるかと思います。

本事業を活用して万博会場に訪れる全ての子どもたちが充実した学びを得られるよう、より実践的な内容を学校に情報提供すべきと考えますが、教育長に所見を伺います。

(答弁)

大阪・関西万博の開幕以降、既に約 800 校、およそ 23 万人の子どもたちが会場を訪れているが、実際に引率した教職員や児童・生徒からは、「技術だけでなく、環境や平和について考えさせられる展示も多く、学びの深い内容だった」「普段の授業では味わえない、刺激と発見に満ちた一日となった」等の感想が寄せられている。このことから、改めて本事業は教育的意義の高いものだと感じている。

府教育庁では、博覧会協会と連携してモデルコース集を提供する等、これまでから、各学校の校外学習が充実したものとなるよう支援してきたところ。今月より、既に来場を終えた学校の引率における工夫・アドバイス等を取りまとめ、これから万博へ行く学校に提供しており、万博での校外学習がさらに良いものとなるよう努めてまいる。

Ⅰ－(6) 児童・生徒招待事業の課題と対応

実際に行った学校からは、入場ゲート前の混雑や熱中症対策など様々な課題も指摘されています。

学校団体に対しては、一般の入場ゲートではなく団体入場口の利用ができるようになっていますが、それでも、学校団体が多く来場する 10 時頃の入場ゲート前は非常に混雑していて滞留が生じています。既に真夏日が観測されている中で、長時間の滞留が発生すると、熱中症の懸念も出てきます。

また、会場での滞在時間が短い小学生等の中には、ゲート前の待機で相当な時間が経過してしまい、実際に会場内で行動できた時間が 2 時間程度しかなかったという事例も聞いています。

そこで、これらの課題について、この間、教育庁ではどのような対策を講じてきたのか。教育長に伺います。

(答弁)

入場ゲート前の混雑・滞留や熱中症対策については、子どもたちの体調や校外学習の行程に及ぼす影響が大きく、改善すべき課題であると認識している。

このため、府教育庁として、過度な滞留の防止に向け、団体入場口の増加や、教職員も含めた学校団体の入場手続きの簡略化等を博覧会協会に要望し、現在、団体入場口はゲートの数を柔軟に運用されている。

また、入場ゲート前や会場内の熱中症対策については、児童・生徒が直射日光を避けられる工夫や子どもたちの待機場所へのスポットエアコンの配置、給水スポットの追加配置等を要望したところ。

引き続き、来場した学校の意見を博覧会協会に伝える等により課題を解消し、今後來場する学校の校外学習が円滑に行われるよう努めてまいります。

【要望】

会期は残り4か月。いろんな問題が出てくると思うが、ぜひ閉幕まで改善を続けていってほしい。

また、今回の大阪・関西万博には校外学習以外にも、催事への出展、演者としての出演など様々な形で子どもたちが来場してくれています。

その子どもたちが、会場での体験や各種イベント等への参加を通して、感じたことや考えたことを、仲間とともに振り返ったり発信したりすることができれば、より万博で得られた学びが深いものになると思います。

府教育庁には、子どもたちが万博での学びを振り返り、その成果を発表できる場を提供するような取組みをぜひ検討していただきたいと思います。

また、今回の補正予算案で、学校単位での校外学習を見送るなどで万博に来場できていない児童生徒等を対象に、夏休み期間の特別招待を実施する案が上程されていますが、6月17日の会派の代表質問で改めて議論させていただきます。

Ⅰ－（７） 大屋根リングが後世に伝える万博の理念

次に、万博の大屋根リングの利活用について伺います。

先週、報道もされていましたが、６月３日に開催された「大阪・関西万博の大屋根リングの活用に関する検討会」において、府市から関係者である国、経済界、博覧会協会に対して提案されたと聞いています。

提案された内容としては、『夢洲第２期区域での開発事業者募集において、北東約 200m の区間を「原型に近い形で活用する計画」も含めて、開発事業者に提案を求めることで大屋根リングの残置の実現をめざす。また、これが不可となった場合は、第３期区域において、まちづくりの開始までの概ね 10 年間、自由に登れる大屋根リング約 350m を残置し、隣接する区域において、イベント広場を整備し、利活用する案の検討を進める。』とのことであります。

大屋根リングについては、大阪・関西万博のシンボルであり、万博の来場者からの評価も高く、私自身も来場するたび圧倒されていますが、閉幕後にも人が登れる原型に近い形で残置できれば良いとも思えますが、一方で、取り壊しを前提に作られたものですので、維持管理にどれだけのコストやリスクがかかるのかといった課題も出てきます。十分に府民の理解が得られるよう検討を進めていくべきと考えますが、知事の所見を伺います。

（答弁）

大屋根リングは、世界最大の木造建築物であり、圧倒的な造形美を備えており、来場者の評価も極めて高い。

このリングの一部を現在の形で残すことにより、将来にわたって、大屋根部分を人が歩き、また同じ空を見上げ、万博を思い起こすことを通じて、「いのち輝く未来社会のデザイン」という万博の理念を後世に伝えていくことができる。

まず、夢洲２期のリング 200m については、民間開発事業者による「原型に近い形で

の活用」をめざすこととし、これと並行して3期のリング350mについても、同様の利活用に向けて、管理主体や財源などの課題を含め、関係者との協議を進めていく。

引き続き、万博レガシーの継承の観点から、関係者とともに検討を進め、府民の理解が得られるよう、しっかりと取り組んでいく。

【まとめ】

一部残すにしても残さないにしても、どちらにしても批判・反論等、意見はいろいろ出てくると思いますが、できるだけ多くの皆さんに理解してもらえるよう検討を進めていただければと思います。知事の思いは私もしっかり受け止めておりますので頑張っていきましょう。

2-（1） 「Beyond EXPO 2025」におけるまちづくり

次に「Beyond EXPO 2025」におけるまちづくりについて伺います。

国立社会保障・人口問題研究所の2050年までの人口推計によりますと、大和川以南の市町村では、2020年の人口と比較して4割から6割になっている地域も多く、今後の人口減少が顕著に表れています。

南大阪は、豊かな自然、歴史、食といった多様な魅力に溢れている一方で、その魅力が十分に活かされ、地域全体の活力に繋がっているとは言い難い現状にあります。

現在、府では、万博後の大阪の成長・発展に向けた府市一体の成長戦略として「Beyond EXPO 2025」を策定中でありますが、南大阪を活性化させていくという視点も描いていくべきと考えますが、政策企画部長の考えを伺います。

（答弁）

現在策定中の「Beyond EXPO 2025」は、万博で披露される新技術等の社会実装や

産業化をはじめ、大阪の個性や強みを活かしたヒト・モノ・投資を呼び込むチャレンジを後押ししていくことで、大阪全体の持続的な成長・発展や、府民の暮らしの向上につなげていくことをめざすもの。

一方、人口減少などによる地域活力の低下は府域の大きな課題である。とりわけ南大阪地域については、府内でも人口減少が著しく、これに対応するためには、南大阪の成長シーズを積極的に発掘し、地域活性化の取組みを進めていく必要がある。

こうした観点から、南河内や泉州地域の魅力的な食材や歴史、文化といったポテンシャルを活かした、海外富裕層の府内周遊を促進するモデル事業の実施や、IR や夢洲 2 期とも連動したバイエリアの活性化など、大阪の成長につながる地域活性化の取組みについても検討を進めているところ。

今後、こうした取組みを踏まえ、今年夏頃に「Beyond EXPO 2025」をとりまとめ、地域活性化を含めた大阪の成長につなげていく。

2-（2） 新大阪駅周辺地域のまちづくり

夏頃の取りまとめということで、もうあまり時間はありませんが期待しております。

続いて、新大阪駅周辺地域のまちづくりについて伺います。

リニア中央新幹線や北陸新幹線の全線開業により、広域交通の一大ハブ拠点となる、新大阪駅周辺地域は、大阪・関西のみならず、日本の成長・発展を支える重要な拠点であります。令和 4 年に内閣府により都市再生緊急整備地域の指定を受け、官民連携した取組が進められております。

緊急整備地域の指定後、まちづくりの機運を高めるためのプロモーションを実施するなど、様々な取組が進められていることは認識しておりますが、本年 3 月に開催された「新大阪駅周辺地域まちづくり検討部会」では、内閣府から、緊急整備地域の支援措置を活用した民間都市開発の具体化が進んでいない状況を懸念する発言があり、スピード感のある取組が求められる状況

であると考えております。

このような中、昨年の８月と１１月には、北陸新幹線の新駅について、国及び鉄道・運輸機構から、その位置を東海道新幹線の新大阪駅南側のタクシー乗り場がある広場付近の地下とする案が示されました。

また、南側広場に隣接する新大阪駅南口エリアでは、地権者などで構成される「新大阪駅南口エリアまちづくり協議会」において、民間都市開発に向けた検討が進められているところであります。

こうした国や地権者などの動向を踏まえ、民間都市開発の早期具体化を図っていくべきと考えますが、今後どのように取り組むのか大阪都市計画局長に伺います。

(答弁)

新大阪駅周辺地域のまちづくりについては、駅や交通広場、歩行者通路などの基盤整備と周辺の民間都市開発を併せて進めることにより相乗効果を発揮させ、快適で利用しやすい空間形成を図ることが重要であり、早期に実現するよう取り組む必要があると認識。

このため、北陸新幹線の駅位置案が示されたことを踏まえ、本年３月のまちづくり検討部会の議論を経て、基盤整備にかかる検討体制として、国、大阪府、大阪市、鉄道事業者等で構成する「新大阪駅エリア交通結節機能強化検討会」を設置したところ。

本検討会においては、駅や交通広場を中心とした乗換利便性の向上やシンボリックな人中心の空間形成、駅とまちをつなぐ歩行者動線などの検討を行うこととしており、その検討成果は、隣接する南口エリアをはじめ、周辺の民間都市開発の早期具体化に向けた重要な要件になるものと考えている。

引き続き、世界有数の広域交通ターミナルの実現に向け、駅とまちが一体となった人中心のまちづくりの観点から、プロモーションによる機運醸成や駅周辺の空間形成に関する検討を進め、容積率の緩和や税制優遇等を活用した民間都市開発の具体化を促進していく。

2-(3) 大阪府立高校改革

最後に、大阪府立高校改革について伺います。

3月末に、教育庁において、「府立高校改革グランドデザイン」が策定されましたが、このグランドデザインは、府立高校において更なる特色化を図る「学校改革」、各高校の強みと受験生のニーズが合致する選抜制度とする「入試改革」、各高校の特色をより効果的に発信する「広報改革」の3つの改革の大きな方向性が示されており、今後、より具体的な改革の方向性を示した「府立高校改革アクションプラン」をとりまとめる予定と聞いています。

私立高校授業料完全無償化に伴って、生徒や保護者にとっては、これまで以上に公立・私立高校の選択の幅が広がっていく中、公立・私立高校が切磋琢磨することで教育の質も向上すると思います。

今後、子どもの数の減少にあわせて府立高校の再編整備を進めていく必要がありますが、未来を見据えた明確なビジョンを描き、府立高校改革に取り組んでいかなければなりません。府立高校改革アクションプランをどのような内容にしていこうと考えているのか、教育長の見解を伺います。

(答弁)

「府立高校改革アクションプラン」については、少子化がさらに進む中、今後の社会の情勢を見据えた中長期的な方向性も含め、検討を進めている。

具体的には、今年生まれた子どもたちが中学校を卒業する15年後の生徒数をにらんだ学校数や学校配置などの再編整備の考え方に加え、府立高校における教育の質の向上をめざして、

- ・学校の建替等の教育環境の整備
- ・英語教育やICTを活用した教育、生徒自ら課題の解決をめざす探究学習の推進
- ・産業構造の変化に即した実業系高校における専門的かつ実践的な教育

- ・「学びの多様化学校」の設置を含めた不登校対策の充実
- ・日本語指導を必要とする生徒等に対する多様な学びの保障

などについて検討を進めている。

併せて、グランドデザインで示した３つの改革を進めるため、各校や学科の担う役割・特色等に応じた学科改編等の具体的取組もとりまとめているところ。

これらについて、本年秋頃を目途に、「府立高校改革アクションプラン」として公表する。

【要望】

先日の読売新聞朝刊の１面に「公立校再編 国が主導」と大きな見出しで記事が出ていました。私立高校授業料の無償化は、全国的にも進んでいくということで、政府主導で公立離れを防ぐため、とのことでした。文部科学省は年度内に改革計画の取りまとめを目指すそうなので、これからも府議会でもしっかり議論していきたいと思いますが、大阪ではこれまで１０年以上の間、授業料無償化を実施してきたわけですから、しっかりとその知見を活かして、国に対して意見してください。また、府で作成していくアクションプランも是非、全国モデルになるような先駆的なものにしていただくことをお願いしておきます。

以上で私の一般質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。